学校だより

つ ち の こ

令和８年６月 26 日
長崎市立土井首小学校
校　長　　小柳　暁

おりこういっぱい　土の子保護者及び地域の皆様　いつもお世話になっております。

先日の臨時休校や登校時刻変更などにご協力いただき、ありがとうございました。これからも、安全で安心できる学校づくりを推進します。よろしくお願いいたします。

教育週間にちなみ、集会で子どもたちにこんな話をしました。ご一読ください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

みなさん、今週は「長崎っ子の心を見つめる教育週間」です。

この週間は、**子どもも大人も安心して過ごせるウェルビーイングな学校**をつくるための、とても大切な一週間です。

実は、この教育週間が始まったきっかけには、長崎で起きたとても悲しい出来事があります。今から２３年前、そして２２年前と２年続けて、同じ子ども同士の間で起きた心のすれちがいや不安などが重なりあってどうにもならなくなってしまい、命にかかわる大きな事件に発展してしまった　ということがあったのです。

この２つの事件が起きたとき「信じられない」それしか言いようがないほど、とにかくショックでした。「どうしてこんなことが起きたのだろう」「どうすれば、二度と同じことが起きないようにできるだろう」 私も含めて多くの大人たちが、たくさん悩みました。しかしまだ未だに答えは出ていないように思います。

ただ一つ「子どもたちの心にもっと向き合うことが大事」と考えて、始まったのが、この教育週間なのです。まず、皆さんにもこの教育週間に込められた大人たちの思いを分かってほしいと思います。

ではこの一週間で土の子たちに伝えたいことを三つお話しします。

一つ目は**「自分の心を見つめてほしい」**ということです。
うれしい、悲しい、イライラする、ドキドキする。 どんな気持ちも大切です。「今の自分はどんな気持ちかな」とあなた自身が気付くことが、心を整える第一歩です。

二つ目は**「相手の心を見つめてほしい」**ということです。
友だちや先生の表情や言葉のうらにある本当の気持ちを考える力をもってほしいです。「こう言ったら相手はどう思うかな」 それを考えることは、まわりを安心させる、すてきな力だと思います。

三つ目は**「困ったときは、大人に話そう。」**ということです。
つらいとき、悩んだときは、先生や家族に相談してください。話すことで、心が軽くなることがあります。土井首小学校の先生方は土の子の味方ですから、きっと一緒に考えてくれますよ。

もう一度言います。この教育週間は、**「子どもも大人も安心して過ごせるウェルビーイングな学校をつくるための、とても大切な一週間」**です。でも、本当に大切なのは、この１週間だけがんばることではなく、これからずっと毎日の小さな思いやりを積み重ねることです。私たち大人も、あの悲しい事件から２０数年たった今でも、反省と努力を続けてきました。これからを生きる土の子さんたちには、これから小さな思いやりを一日一日積み重ねてほしいと思うのです。

土井首小学校を、心から「ここにいてよかった」と思える学校にしていきましょう。一緒にがんばりましょう。

学校教育目標 **「なりたい自分になる！やりたいことをやる！」**